信州大学理学部同窓会

会報30号

信州大学理学部同窓会
発行日：2017（平成29）年 9月 1日
発行責任者：森 淳
住所：松本市旭3-1-1 信州大学理学部内
e-mail：rigakudou@shinshu-u.ac.jp

理学部長就任のごあいさつ

理学部長　市野　隆雄

この４月に理学部長に就任して、はや４ヶ月が経ちました。予想していた以上のロードに、当初はたじろぎましたが、最近やっと少し慣れてきました。これから３年間、どうかよろしくお願いいたします。

同窓会のみなさまには、理学部の運営・教育に対して、いつも物心両面で多大なご協力をいただき感謝しております。具体的には、自然誌科学館（夏休みの「自然シリーズ」）における経費支援や古本市の開催、キャリア教育概論（学部授業）への講師派遣や経費支援、さらに過去には50周年記念事業、理学部ホームページの改訂、理学部紹介冊子の発刊の際などに、さまざまなご支援をいただいています。

そしてこの同窓会報です。理学部では、2011年度から保護者あてに年２回、学生の成績表を送付していますが、そこに同窓会報を同封することにさせていただきました（2016年度末より）。これで保護者のみなさんは､我が子の成績だけでなく、同窓会報を通じて、理学部での学生や研究室の様子を知ることができます。

なお、同窓会報は、在学生の保護者に約900部、同窓生あてに約5000部が送付されています。そしてもちろん在学生にも入学式、卒業式などの機会に配布しており、さらに同窓会のホームページ上では、バックナンバーも読めるようになっています。

理学部について

何かと「社会に役立つかどうか」を問われる風潮ですが、その中で理学部の存立のベースとは何でしょうか。就任後に私が理学部ホームページに書いたものから、まず理学部の「教育」について紹介させていただきます。

> 就職活動で企業面接にのぞんだ理学部の学生が、「あなたが理学部でやってきたことが、この会社で何の役に立ちますか？」と聞かれたそうです。その学生は、「論理的に考えることによって、いろいろなことへ対処できる力を自分は持っています。そして、それは会社だけでなくすべてに通用する力だと思います。」と答えたそうです。
>
> このような、卒業後もそれぞれの場で問題解決にむけた独自のアプローチができる人、あらゆることについて論理的、批判的に考えることのできる人を育てることが、理学部の教育目標の一つです。

一方、「研究」については、以下のように書きました。

> 理学部は、自然現象の不思議を解き明かし、物事の本質を突き詰める研究を行う学部です。その学問の性質上、研究の成果はすぐには役に立たないかもしれません。しかし、例えば電磁波の発見が無線通信の実現につながったように、いずれ社会に革新的な変化をもたらす潜在力を秘めています。上の理学部学生の話と似ているところがありませんか。

もちろん、理学部の研究の重要性は応用につながる基礎というだけではありません。研究を通して、はじめて私たちは自然を理解することができます。研究の成果は、私たちの自然観を豊かなものにし、自然と共存することの大切さを教えてくれます。

理学部の「事業計画」

上に書いたような理学部の教育や研究の中味を、より高いレベルのものとして実現するために、理学部では毎年「事業計画」を作成しています。「事業計画」は、年ごとに異なるものを大学執行部に提出し、査定され、予算配分を受けています。2004年の大学法人化以降、このようなシステムが導入されました。2017年度、理学部の重点事業計画は、３つあります（教育、研究、社会貢献）。それぞれについて簡単にご紹介します。

教育関連では、「入試と学部教育の一体的改革」を計画として掲げています。ここでは、ディプロマポリシー（どんな学生を育てるのか）、カリキュラムポリシー(そのためにどのような教育カリキュラムを組むのか）、アドミッションポリシー（どのような入学生を受け入れるのか）を改めて策定する計画です。その上で、教育システムや入試方法の見直しをおこないます。見直しの理由は、人員削減を見越した新たな教育体制や、大学共通テストの導入に対応した新たな入試への取り組みが必要だからです。

次に、研究関連の事業計画としては、「教員と大学院生の力を結集した学際研究の創成」を挙げています。ここでは、理学部内の研究を活性化させることで、学部生の大学院への進学をうながし、その大学院生の力を結集してさらなる研究の展開を図る、といった正のスパイラル効果をねらっています。

最後に、社会貢献関連の事業計画としては、「地域と連携した信州大学自然科学館の運営・事業展開による社会貢献」を掲げています。これについては今回、科学技術振興機構（JST）の科学技術コミュニケーション推進事業予算を獲得し、2017年度から事業を開始しています。この詳細はいずれ本誌面でも紹介されると思います。

研究紹介冊子

理学部の新たな研究紹介冊子が、この秋に発刊される予定です。この冊子は、高校生や一般市民のみなさんに、信州大学理学部でどのような研究が行われているかを紹介するものです。2008年に同窓会の支援を得て発刊した「信州で学ぶ」の後継冊子にあたります。今回の冊子でも、理学部の全教員が自分の研究について、「いま行っている研究内容」、「研究から広がる未来」、そして「卒業後の未来像」に分けて、わかりやすくコンパクトにメッセージを綴っています。

８月の発刊を前にすでに原稿が集まっています。それを順に読み進むと、数学、物理学、化学、地球学、生物学、物質循環学の各学科・コースの各教員の研究内容は一見バラバラに見えます。しかし、どれも自然の美しさや驚きに魅せられ、それを解き明かそうとする点で共通しています。そのような研究への情熱や真理探究への熱意、それが自然科学の府としての理学部の神髄です。この冊子は、オープンキャンパスや展示会等で配布するため、同窓会のみなさんや在学生の保護者のみなさんには残念ながらお配りすることができません。しかし、冊子よりも詳しく充実した文章が、理学部のホームページ上の「理学部クエスト」に掲載されています。ぜひご覧下さい。

さて、在学生の中には、元気にキャンパス生活をおくっている人たちが多数を占める一方、勉学意欲が低下したり、就職や進学に思い悩んだりする「迷える子羊」たちも少数ながらいます。しかし、彼ら彼女らも、何らかのキッカケで学生生活に意義を見出し、進路に光を見出してくれることがあります。そのキッカケとなるのが「出会い」です。同窓生のみなさまにおかれましては、在学生のロールモデルとなる生き方・ヒントを、いろいろな機会をとらえて在学生に示していただけると幸いです。在学生にとっては、自分たちと同じコミュニティーで学生生活をおくった先輩たちの姿や言葉との出会いが、重要な転機となることがあります。ぜひ、この同窓会誌への寄稿、同窓会総会などでの生身の出会い、あるいは冒頭に述べた「キャリア教育概論」へのご出講などを通じて、在学生へメッセージを発信していただけますよう、お願いいたします。

今後とも理学部の維持発展のため、いっそうのご協力をお願い申し上げます。

会　長　挨　拶

森　　淳

同窓生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。この夏は、その入り口から猛烈に暑い日々と局所的な豪雨が各地を襲いました。皆さんのお住まいの地はどうでしたでしょうか。ご苦労なさっていないでしょうか。

憲法９条の改悪が遡上にのぼっています。これまでもそうした動きはありましたが、その都度「９条を守れ」の国民の声で阻止されて来ました。

憲法前文は「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し」と述べ、９条で「武力行使の放棄」とその保障として「戦力を保持せず、交戦権を認めない」と明記しています。また、前文の最後に「名誉にかけて崇高な理念と目的を達成することを誓う」と決意を述べています。

国連憲章は大戦末期の1945年6月に当時の連合国が中心となり起案・調印され、独立国の多数の批准を得て10月に発効しました。国連憲章前文は「戦